

赤 城 山 観 光 情 報 紙

A K A G I F T

SPRING / SUMMER 2023



【特集】

らんたんで甦る台湾との絆

赤城山産 美食のヒミツ巡り #2

チーズ工房Three Brown / 星野山菜園

あかぎこ女塾

リゾート必至の美味しい“きつね”は、いらんかね？

いなり寿司 のり巻き専門店 きつね

SlowWalk

僕らの海は「大沼」だ！

【特集】

らんとんで甦る 台湾との絆

いつの時代も平和で穏やかな暮らしは、人々の変わらぬ願いだ。コロナ禍も3年目に突入した2022年、赤城山頂ではランタンの灯が連なり、闇夜に浮かび上がった。その光景が意味するものは——。AKAGIFT vol.12の特集では、歴史の中に埋もれていた“絆”を探し、甦らせていく。

赤城山山頂を照らした ランタンの光。

2022年8月6日。色とりどりのランタン600個が、大沼へ注ぎ込む覚満川の兩岸を彩った。夕暮れ時からランタンに灯りがともるとひととき大きな歓声があがる。夜店も出て異国情緒あふれ、あでやかな祭りの雰囲気人々が心地良く酔い知れる。

「赤城山らんとんまつり」の主役を飾った“ランタン”。その一つひとつが台湾の子どもたちが描いた個性豊かな一点ものだ。そもそも、台湾では春節(旧暦の元日)から数えて15日目にあたる日に吉祥や邪気払いの意味で提灯をともすという古くからの風習があるようだ。その文化が現代にも受け継がれて「台湾ランタンフェスティバル」と呼ばれる世界中から観光客が集まるイベントにまで発展している。

実はこのランタン、台湾・台南市から群馬県みなか町に贈られたもので、このイベントをきっかけにみなか町の協力のもと、台南市との縁のあ

台湾との絆をつくったレジェンド実り人



羽鳥 重郎 (1871-1957)
Juro Hatori

▼どんなことをした人？

苦学して兄の遺志を継いで医師となり、台湾に渡った。台湾で猛威をふるっていたマラリアなどの熱帯病撲滅に貢献。奇病と言われた「台湾ツツガムシ病」を発見し、56歳の時に台湾総督府医院医局長兼中央研究所技師となる。台湾花蓮市に医院を開き、移民村や現地の人々を救った。

▼ふるさと赤城山とのつながり

明治4(1871)年、勢多郡富士見村大字石井で生まれた。当時、珊瑚寺にあった石井小学校で学び、11歳になると小暮にあった前橋中学校(現在の前橋高校)に入学する。同級生にのちの内閣総理大臣となる鈴木貫太郎がいた。16歳の時に石井小学校の教師になるが、優秀な医師であった兄が若くして亡くなったのを機にその夢を継ぎ、医学の道へ進む。東大医学部助手や船医生活を経て台湾へ。40年余り台湾の医療に貢献し、故郷に帰った時には村人たちがその名誉を祝して石井小学校で盛大な祝賀会を行った。87歳で亡くなり、石井の羽鳥家墓地内で妻・花兄とともにねむる。



台湾総督府医院医局長になった頃の羽鳥重郎医学博士



羽鳥 又男 (1892-1975)
Matao Hatori

▼どんなことをした人？

大正期に親戚で医学博士の羽鳥重郎を頼って台湾に渡り、台湾総督府に人事主任官として勤務。その誠実な仕事ぶりが当時の総督(台湾総督府で一番偉い人)に認められて50歳で台南市長となる。市長となった又男は、職員や住民と一緒に「清掃コンクール」を行うなど、当時の不衛生だった下町の美化に努めたり、孔子廟や赤坎楼の文化遺産を修復するなどした。また、帰国後は国際基督教大学(ICU)建設に尽力するなど日本国内でも手腕を発揮した。

▼ふるさと赤城山とのつながり

明治25(1892)年、勢多郡富士見村大字石井生まれ。父は第二代の富士見村長。小学校は石井尋常小学校。成績優秀賞与生に選ばれるほど優秀だった。一旦、東京へ居住地を移したものの、すぐに帰郷することとなり17歳で母校石井小学校の教師となり、子どもたちと共に過ごした時期もあった。83歳で亡くなった時には設立に寄与した国際基督教大学での学園葬が開かれた。石井小学校の先生をしていた時の教え子たちがバス一台に乗って富士見村から駆けつけ、又男を偲んだというエピソードが残っている。



市長室にて撮影された羽鳥又男市長

出典：富士見商工会発刊「子ども羽鳥マンガ読本」

る赤城山へと巡り巡ってやってきた。台南市との赤城山の“縁”は、昭和～明治まで遡り、赤城山麓で生まれ育った二人の人物が深く関係しているのだが、台湾とつながりがあったこと自体、祭りをきっかけに初めて知ったという人も多くいたようだ。

結ばれた《絆》を 今、再び甦らせよう。

その二人とは、富士見村(現・富士見町)で生まれ育った「羽鳥重郎」と「羽鳥又男」。重郎は台湾の衛生・医療行政に貢献し、又男は台南市長として文化財と人々の保護に尽力した人物だ。二人は親戚関係にあり、はじめに重郎が台湾に渡り、のちに重郎の背中を追うように又男が渡航している。彼らをはじめ、日本統治時代の先人たちの功績によって台湾に多くの親日家が生まれたと言っても過言ではない。また、偶然ではあるが、医学博士であった重郎が台湾の人々を伝染病から救った素晴らしさは、コロナ禍を生きる今の私たちだからこそ強く実感できる。

ふるさと赤城山麓出身の偉人たちの、時代も国境も超えた功績であるがゆえ、なかなかそれを実感することは難しい。だがしかし、祭りのようにカタチにすることでそのエッセンスを、確実に未来へと受け継ぐことはできる。

赤城山で続く行事も 引き継いで。

らんとんまつりの一環として、赤城神社の弓馬術礼法小笠原教場奉納弓術や灯ろう流しも行われた。台湾で古くからランタン文化が継承されてきたように、ここ赤城山でも大切に繋がれてきた行事がある。馬にまたがりの的にむかって弓を射る勇壮な姿には拍手喝采が湧きおこり、赤城神社の御神火で灯をともした灯ろうを赤城大沼のほとりにそっと浮かべ、静寂の中、平和や無病息災を願って祈りを捧げる。

台湾と赤城山。100有余年の時を経て、二つの文化が混じりあう濃密で、特別な時間がそこにはあった。



霧に覆う湖上に浮かび、より一層幻想的な雰囲気を出し灯ろう。

2023年度夏以降も
「赤城山らんとんまつり」は
続く予定

昨年度よりパワーアップして、
赤城山の山頂がランタンの
光に包まれます。お楽しみに！

当日のイベント会場ではランタンの絵付け体験も。子どもたちが心を込めて絵付けを行ったランタン約150個は台南市へ。台南市消防局が春節(旧正月)前に行った厄除けと防火を願うランタンフェスティバルで台南市のランタン約2,500個とともに台南市の夜を彩った。





羽鳥又男胸像

羽鳥重郎・又男ゆかりのお寺

珊瑚寺を訪ねて

中国に伝わる瑞獣(神獣・聖獣)の一種「白澤(はくたく)」は、県内ではここでしか見られない貴重な彫刻。

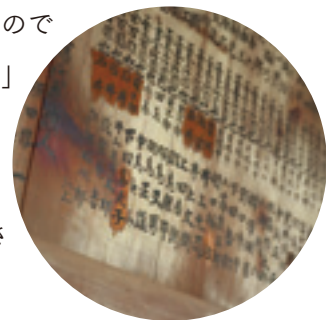
国道353号沿いにあり、代々羽鳥家の菩提寺でもある「珊瑚寺」を訪ねた。心よく出迎えてくれた住職の内田 堯重さん。境内の名所をいくつか案内してもらいつつ、台南市長を務めた「羽鳥又男」の胸像を拝観した。場所は本堂の東側、地藏堂へ向かう石畳の参道横。胸像のすぐ隣には彼の功績をまとめた説明板があり、はじめてその存在を知る人にとっても親切だ。四季折々の草木に彩られた風情あふれる境内の雰囲気の中、又男が歩んだ軌跡に思いを巡らせてみる。

台湾で制作、寄贈されたこの胸像が珊瑚寺に設置されたのは、2007年4月のこと。「境内に設置することにあたり、先代住職から紆余曲折があったと聞いています」と住職の堯重さんは振り返る。というのも又男自身、台湾に渡ってすぐ



にクリスチャンとして洗礼を受けており、帰国後は国際基督教大学の創立に貢献をしている。堯重住職さんは「当然のことながらお寺にクリスチャン

の胸像はいかがなものかという声も出たようです」と言う。しかしながら台南市長時代、戦争により没収されそうになった開元寺という“仏教のお寺の大切な古鐘を守り抜いた”ことなど、宗教の違いにとらわれない功績が考慮されて、無事設置へと至ったのである。「最終的には義理人情に厚い上州人ならではの、寛容な宗教観によるところもあったのではと考えられますね」と補足する。さらに「こちらまでご覧ください」と本堂に案内さ



珊瑚寺
前橋市富士見町石井1227
TEL.027-288-3503



Facebookはこちら/



Instagramはこちら/

実り人プロフィール

#58 珊瑚寺41世住職
内田 堯重さん
Brocho Uchida

高校で地理の教師を務めた経歴をもつ。比叡山での修行を経て、2013年秋より住職となる。



不動の滝、鏡池、赤面観音など巡って楽しい七不思議などもあって見どころたっぷり。

に見事で、東国花の百ヶ寺の一つにも選ばれている古刹・珊瑚寺。サクラだけではなく、ツツジ、梅、福寿草のほか、可憐な山野草も咲く美しい“花のお寺”だ。詳しく知りたい方はInstagramやフェイスブックなどSNSで見ごろをチェックして足を運んでみてはいかがだろう。ただし法要などがある午前中の時間帯は避け、ゆったりと散策できる午後がおすすめのこと。一般参拝客歓迎のイベントも開催されているので、ぜひ年間を通して訪れてみてほしい。

早起きは人生の得。PICK UP イベント 無料

井天様御縁日のお勤め会

金運がアップする縁起のよい己巳の日に住職と一緒に読経しませんか。1回だけの参加OK! 持ち物不要。己巳の日となる60日毎に開催。

【時間】午前6:05～6:40頃
2023年開催日 5月11日(木)、7月10日(月)ほか

お寺の花見会

本堂の濡れ縁で梵鐘や読経に耳を傾けながらお花見ができるスペシャルイベント。
例年 4月上旬開催 【時間】午前6:00～7:00頃 2023年は4月2日(日)

早朝座禅会

ジャージなど体を動かしやすい服装で参加しよう。椅子での座禅もOK!
例年 年3回(5月、6月、7月)開催
【時間】午前6:00～7:00頃
2023年は5月14日(日)、6月4日(日)、7月2日(日)

“ふるさと、富士見の偉人を子どもたちにも伝えていきたい。”

羽鳥重郎、又男の功績を地元・富士見に広める活動をする3名の方にお話を伺いました。

小林さん 羽鳥重郎さん・又男さんという郷土が誇る偉人がいることを、私自身、子どもの頃は知らずに育ちました。地元から離れて活躍されたお二人なので、それまで赤城山ではほとんどスポットライトを浴びることはなかったんですよ。

阿久澤さん 富士見商工会の事務局長を務めていた頃はじめて、私自身もしっかりと認識しました。ならばぜひ、子どもたちにも知ってもらいたいとの思いで、小林さん、藤倉さんとともに2019年に「富士見ゆかりの偉人物語」、「子ども羽鳥マンガ読本」などを当時の小学校の校長先生や前橋市内の学生さんたちに協力を仰いで面白く、分かりやすくまとめました。

藤倉さん 冊子や漫画を作るきっかけになったのは、2015年3月に羽鳥重郎さんや羽鳥又男さんを題材にした歴史劇でしたよね。脚本から演者まで当時の富士見商工会のメンバーを中心にみんなで創り上げました。観に来てくださった地元の方々が、「まるで自分たちが重郎さん、又男さんゆかりの台湾にいるかのような気分になったよ」とうれしい感想もいただきました。

阿久澤さん そうですね、あれは盛り上がりましたね。話していたら、マンガ読本を読んだ小学生の皆さんも、いい感想をたくさん寄せてくれたことを思い出しました。

小林さん ずいぶん前になりますが、羽鳥家の菩提寺である珊瑚寺の先代住職さん、そしてその檀家さん、そして私を含めて二十数名で台湾へ渡り、羽鳥又男さんの胸像を製作した許文龍さんに会いに行ったことがあります。

阿久澤さん 許文龍さんは台湾の「松下幸之助」とも称される台湾屈指の実業家で、世界的に価値のある美術品を収蔵する奇美博物館のオーナーを務めている方です。台湾に尽くしてくれた又男さんに感謝の気持ちで又男さんの胸像を自ら製作して、日本に贈ってくれたんですよ。

小林さん 大変な親日家の方で。お会いした時にぜひ重郎さんの胸像も作製していただきたく、その功績をご説明差し上げた

ところ胸像の製作を快諾してくださったんですよ。

藤倉さん それが今、又男さんの胸像は珊瑚寺に、重郎さんのは富士見公民館の玄関横に設置されていて、気軽に見られるのがうれしいですね。

阿久澤さん 台湾にも二人の胸像があるんですよ。昔、日本と同じく台湾でも戦争の際にお寺が鐘の供出を求められるということがありましたが、台南にある開元寺の立派な古鐘は、台南市長であった又男さんが守ったというエピソードもあります。又男さんの胸像は、有名な観光地の赤坂楼に設置されているのを見してきましたよ。

藤倉さん コロナが世界的に流行する前に、台湾からモニターツアーで誘客したこともありましたね。

阿久澤さん 重郎さんも又男さんも、台湾で今も敬愛されているお二人ですからね。海を渡って二人のふるさと、赤城山に足を運んでくださいました。開花の時期ではなかったのですが、桜が満開の珊瑚寺の写真を見せたら、やはり皆さん、非常に興味を示していましたね。

小林さん コロナ禍も落ち着きを見せてきた2022年、山頂では「赤城山らんとんまつり」が開かれて、羽鳥重郎さん、羽鳥又男さんという郷土を代表する偉人にスポットが当たったことをうれしく思いますね。他にも富士見は、小淵志ちさんをはじめ素晴らしい人物をたくさん輩出していますので、これをきっかけに多くの人に知ってもらえたらと思います。

ありがとうございました。



偶然のつながりではあるが、境内の「千仏堂」で祀られている「閻魔大王像」もまた、かつて台湾で作られたものだという。



AKAGIFTvol.11に引き続き、vol.12でも赤城山の恵みを受けたおいしい食材を紹介する。国道353号から細い道を少し北へのぼった場所にある前橋市粕川町中之沢の手作りチーズ工房と、桐生市黒保根エリアの中でも特に奥深い山里にある山菜園へ。取材をすればするほど、おいしい食材と作り手の思いに感動する、そんな赤城山的美食旅。



長いまつ毛に大きな瞳が愛くるしい2頭の子牛は、「パンビのような可愛らしさ」だ。

自分たちの手で育てた牛のミルクからつくったこだわりのチーズとジェラート。

赤城南麓のチーズ工房Three Brown。標高約600mに位置し、冬期は晴れていても赤城おろしが吹きすさぶと、ダウンジャケットを着ていても肌寒い。「牛さんたちはとっても寒さに強いのですが、強い風はちょっぴり苦手みたいですよ」と、ほがらかに語りはじめてくれた松島薫さん。現在、7頭のブラウンスイス牛をご主人の俊樹さんとともに自分たちが経営する農園で育てている。「自然のまんまが一番いいと思って、牛さんたちの餌は牧草をたっぷり与え、濃厚飼料は遺伝子組み換えではないものを与えています」と、愛情をこめて「さん付け」で呼ぶ薫さん。一頭一頭、名前もつけ、家族の一員のように「共に生きている」。

朝夕、欠かさず、1年365日、1日2回ミルクを搾るのはご主人の俊樹さん。できるだけ風味を損なわないよう、ポンプを通さずミルク缶に生乳を直入するのもこだわりの。牛舎すぐそばの工房へ運ぶと、薫さんが発酵までの作業を担う。そして再び俊樹さんにバトンタッチ。その日のうちに、または数日じっくり発酵させながらさまざまな種類のチーズを作りあげていく。看板商品のひとつ、カチョカパロはフライパン

で焼いて食べるとおいしく、熟成されたカチョカパロはスライスするとお酒のおつまみにぴったりだ。酵母で熟成した「ジル」、ジャムやドライフルーツとの相性も抜群のフロマージュタイプの「ドリー」は、外国人アーティストの方々のコラボ商品だそうだ。「筒状にして手で長く長く伸ばしていくさけるタイプのチーズは、



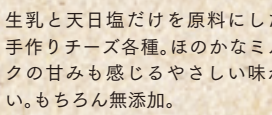
笑り人アロフィール

チーズ工房Three Brown
#62 松島 薫さん 松島 俊樹さん
Kaoru Matsushima Toshiki Matsushima

北海道出身の夫・俊樹さんは、酪農業を営む両親のもとで育ち、妻・薫さんは、赤城南麓で有機野菜や養豚、お米づくりを行う複合農家の両親のもとで育った。



ひょうたん型の一番人気のチーズ「カチョカパロ」をトロリと焼き目をつけて。素材が良いからシンプルな料理がこちそうに。



生乳と天日塩だけを原料にした手作りチーズ各種。ほのかなミルクの甘みも感じるやさしい味わい。もちろん無添加。



クセがなく、歯ごたえが良いモッツァレラは、やっぱり定番カプレーゼが絶品。



スプーンで練るとシルクのように艶が出て、口当たりもまずすなめらかに。



笑り人アロフィール

星野山菜園
(左から)
星野 光平さん
Kohei Hoshino
星野 勝美さん
Katsumi Hoshino
滝澤 明子さん
Akiko Takizawa

桐生市黒保根町上田沢地区の豊かな大自然の中で生まれ育った兄妹で山菜園を営む。



四季折々の山の恵みを究極のごはんの供に仕上げる。

「まあ、ちょっとかじってみてください」とニコニコしながら園長の星野勝美さんが差し出してくれたのは、山椒の実。通常、実の中心部の種は使わず、それをくるんで



摘みたての山椒の葉はすぐに湯がくのだそう。

皮や、山椒の葉の部分の食材として使用する。米粒大にも満たない小さな種を一粒手にとって、ほんの少し鼻に近づけただけで山椒の独特な香りが漂う。そしてポリッと歯で砕いた瞬間、ピリリとした味わいとぶわっと勢よく鼻腔へ抜けていく目の覚めるような香り。思わず「おおおっ」と目を見開くと「昔の人は、山椒の実を毎日5粒食べると昼間でも星が見えるほど目がよくなるって言ったのよ」と付け加える妹の明子さん。口の中に広がったその香りはすぐに消えずに数分持続する。凄まじい自然の威力が小

さな小さな一粒に蓄えられている。

星野山菜園は、その名の通り山菜に特化した農園だ。長兄で園長の勝美さん、妹の明子さん、弟の光平さんの3人で山菜の生産、加工、販売まで行っている。山椒味噌、山椒の佃煮、フキ味噌、フキのおやき、わらびの煮つけ、葉唐辛子の佃煮、ユズ味噌などさまざまな手作り加工品が移ろう季節とともに次々と登場する。自然のもののだからこそ、豊作、不作も当然あるが、その年採れた分をほぼ1年かけて大事に加工する。山の恵みをおすそ分けしてもらっているような、あたたかな気持ちが湧いてくる。

「まだ六次産業という言葉もなかった時代に、母と父が二人で作って売り始めたのがはじまり」という勝美さん。きっかけは生計を立てていた養蚕の衰退だった。そこで自分たちや近所の人たちで食べる分だけ自家製していた山



山椒の実の選別は、時間と根気がいる作業。

赤城山産美食のヒミツ巡り #2



味噌もこだわりのひとつ。黒保根産の八千代みそを使用している。



寒い冬にこそ食べたい逸品、ユズ味噌をのせたふろふき大根。



山椒味噌をたっぷりぬった焼きおにぎり。



米作りでベストファーマー賞も受賞した勝美さんが作ったお米「くるほの雫」×山椒味噌は最高のゴールデンコンビ。

んだよね」。シンプルイズベスト、極上の食べ方を惜しげもなく伝授してくれる。

取材時は1月下旬だった。迎りをぐるりと見渡してもまだ冬景色。山菜はおろか、春の息吹

はまだ見当たらない。そうかと思ったら、目の前の茶色い山肌を指さしながら明子さんが言う。「ほら見て、うっすらとピンクがかっているのがわかるかしら。」「ああ、そう言えば、そうだねえ」とうなずく勝美さんと光平さん。目を凝らせば確かに見えた春の訪れ。“山のごちそう”で山がにぎやかになるのも、もうすぐだ。

星野山菜園

桐生市黒保根町上田沢1081
TEL.090-7203-3045

◎山菜園で直接購入する場合
要予約(ご希望の商品と日時をお電話にてご予約してください)
※すべて手作り商品のため、売り切れの際はご容赦ください。

【販売場所】
道の駅くろほね やまびこ
9:00~15:00
桐生市黒保根町下田沢91-4
TEL.0277-96-2575



平成のはじめ頃に、母ミエ子さんのアイデアでスタートさせた。

リピート必至のおいしい“きつね”は、いらんかね？



店内に飾られた「キツネ」のオブジェ。お客様からの頂き物も。



いなり寿司とのり巻きのテイクアウト専門店「きつね」の暖簾をくぐる。オシャレでかわいいキツネ印に清潔感のある白い暖簾だ。店舗は桐生市街から梅田方面へ向かった県道66号沿いにあり、2018年4月に開店して今年で5年目を迎えた。「店名は“きつね”か“きつねや”で迷って、最終的に娘が決めてくれました」と気さくに話しはじめてくれた店主の大澤信平さん。奥様の亮子さんと二人で、具材の仕込みからすべて手作りしている。「もともと祖母の代から続く桐生市本町にある寿司店“みどり”の娘で、夫婦でお店を手伝っていたんです。でも、祖母も両親もまだまだ元気だし、主人と話して自分たちで独立して頑張ってみよう」とターニングポイントを語る亮子さん。お寿司に使うお米は地元産のコシヒカリ、海苔やかんぴょうは良質な国産ものに限定して使用している。特にいなり寿司の味を大きく左右する油揚げは、「大豆の味がしつかりと感じられる同じく桐生のとうふ工房 味華さんの肉厚の油揚げ

をオリジナルに作ってもらい仕入れています」とのこと。「また食べたいうって思ってもらいたいの、どちらかという味付けは控えめかも」といういなり寿司をほおばってみると、深みのある出汁をたっぷり含んだ油揚げにくるまれていて最後の一口までみずみずしくいただける。まるで、ふんわりとした甘みで、たしかに思わず「もう一つ」と箸を伸ばしたくなるやみつき感だ。スタンダードな「いなり」から、刻んだ大葉と大葉ペーストをブレンドした「大葉いなり」や、香り豊かな「ゆず胡麻いなり」のほか、季節によって商品が入れ替わるいなり2種も登場する。遠方からでも、そして何度でも足を運び

たくなる理由は、もはや理屈ではないのかもしれない。そこに待っている“おいしいもの”と、ほっこりとした気持ちまでお土産になるような、作り手の朗らかな笑顔があれば。答えは、とってもシンプルだ。



代表の大澤信平さんと妻の亮子さん。



大葉たっぷり。やみつきになったファンも多し。



詳しくはコチラ！



いなり寿司 のり巻き専門店 きつね

桐生市天神町三丁目17-25
TEL.0277-47-7207

9:30～18:30
定休日 水曜日・第4火曜日



三角形の個包装のいなり寿司や詰め合わせを買って梅田湖へのサイクリングやドライブもおすすめ。



Slow Walk



僕らの海は「大沼」だ！



県立赤城公園サポーター
古川 仁章さん
通称「夏さん」

赤城山の山頂まで毎週末のように訪れていて、その様子をTwitterに頻繁にアップしているの、「もはや赤城山に住んでいるのでは？」と言われることもしばしば。そう勘違いされるほど僕は赤城山が大好きで良く足を運んでいるのですが、その魅力にどっぷりハマるきっかけは「ジャパン峠プロジェクト」



峠ファンによる赤城山でのクリーン活動の様子。

ト」との出会いでした。各地の峠の名前をステッカーにし、その地域のみで販売されています。ステッカーを集めることがドライブやツーリングの目的の一つになり、行く先々で地域の人やそこで出会った人との交流が生まれています。

2016年9月5日、埼玉県正丸峠ではじめて「峠ステッカー」が発売され、1か月後の10月6日に赤城山でも発売されました。その情報をTwitterで知り、10月28日(群馬県民の日)に碓氷峠から赤城山まで一気に4か所を巡って手に入れました。僕が購入した場所は青木旅館さんでした。その後もTwitter上で赤城山から発信されるさまざまな情報をチェックするようになり、大沼湖畔のトレッカーズカフェさんや鳥居峠のサントリービアハイランドホールのオーナーさんらと知り合い、交流の輪がどんどん広がっていきました。赤城山に住まう人もそこに集う人も、皆さん魅力的な人ばかりで、気づいたら週末のたびに赤城山へ車を走らせるようになって

いましたね。そもそも休日に車に乗って遠出する習慣がなかったのに、峠ステッカーと赤城山の魅力を知ったことで価値観が大きく変わりました。もともと宮城県出身の僕ですが、赤城山へ遊びに行くというより「赤城山へ帰る」、今ではそんな表現がしっくりくるようになりました。「僕らの海は大沼だ！」そんなふうに仲間内では言い合っています。

2017年6月には『峠クリーンプロジェクト』も始動しました。はじめはジャパン峠プロジェクトの主導ではじまりましたが、その後、各地の「峠ファン」が自発的に自分の好きな峠を掃除したり、出かけた先でゴミ拾いをしています。もちろん、ここ赤城山でも行われ、僕も活動にたびたび参加しています。車の中にはいつもゴミ袋やトングを常備していますよ！

人が魅力的で自然が豊かな赤城山。今までもこれからも僕にとってかけがえのない大切な場所であることに違いありません。



Twitterフォロワー4,000人超えの夏さんこと古川さんが赤城山をはじめ、各地を車でめぐるきっかけとなったジャパン峠プロジェクトのステッカー「赤城山」。ジャパン峠プロジェクトの仕掛け人・野口氏は、このプロジェクトを通して地域を盛り上げたいと話す。

【赤城山/販売店】青木旅館、曾山商店、サントリービアハイランドホール、名月館

《発行者》 公益財団法人 前橋観光コンベンション協会 群馬県前橋市本町2-12-1 前橋プラザ元気21 TEL.027-235-2211

赤城山のことは /



Akagi Trip

<https://www.akagi-trip.com>



赤城山の玄関口前橋の観光は /



前橋まるごとガイド

<https://www.maebashi-cvb.com>



information

A K A G I F T

×



AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ！」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました！お出かけの際は各二次元バーコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね！